

行政評価委員会開催結果報告書

平成25年1月30日

会議の名称	平成24年度第13回石狩市行政評価委員会
開催日時	平成24年12月20日(木)15時30分～17時10分
開催場所	石狩市役所3階 庁議室
出席委員	松井委員長 長谷部副委員長 堀内委員 堀委員 岩崎委員 (計 5名)
欠席委員	 (計 0名)
説明員職氏名	 (計 0名)
傍聴者	 (計 0名)
議題等	1 議題 (1) 平成24年度行政評価結果について (2) 行政評価委員会の進め方について (3) 行政評価委員会の今後の在り方について
結果	・資料に基づき、今年度の行政評価結果とその予算要求反映状況、市民意識調査の実施状況について、事務局から報告を行った。 ・来年度、総合計画の策定を予定していることから、行政評価委員会による外部評価については一時休止することを説明した後、今年度における本委員会の運営方法や今後の在り方について、意見交換を行った。
事務局職員	加藤企画経済部長、松田企画課長、佐々木主査、青木主任

審議内容の記録（審議経過、結論等）

1 開会（15：25）

2 議事

(1) 平成 24 年度行政評価結果について

【資料に基づき説明】事務局：佐々木、青木

説明資料： 平成 24 年度行政評価（施策・事業）の結果（平成 24 年 11 月）
平成 24 年度石狩市行政評価委員会報告書（平成 24 年 8 月）
平成 24 年度行政評価の状況について
市民意識に関するアンケート調査票（含：新旧対照表）
市民意識に関するアンケート調査結果（未定稿）

（行政評価委員会の評価意見に関する対応状況等）

- ・各種事務事業の執行に当たっては、担当部長による最終評価結果や今後の方向性を十分に確認し、常に改善意識をもった事業執行を心掛けるよう、職員説明会などの機会を通じて徹底している。また、新年度予算編成に際しても行政評価結果を踏まえた予算要求に努めるよう職員に周知している。
- ・市民参加や協働の推進に関しては、「市民討議会」など新たな手法の検討を進めている。
- ・事務事業評価における適切な指標設定については、例年 3 月頃から開始する「事業 1 次評価」作業の際に、改善を図りたいと考えている。
- ・その他、評価シートの作成方法や施策推進のための人的支援の拡大、賛助会員制度など取り組み姿勢に関する意見、「いじめ対策」や「教育の情報化」など個別施策に関する意見についても、今後、それぞれ検討・改善を図っていくよう担当部局と調整を図っている。

（市民意識に関するアンケート調査について）

- ・全般的に設問の文章表現の改善や、具体的な例示を増やすなど、回答者が理解し易い工夫をしている。
- ・「情報公開と情報共有の推進」で話題となった「市政の透明度」に関する設問では、具体的な選択肢を設け、不透明と考える理由を分析することとした。

【質疑・意見交換】（ は委員発言要旨、・ は事務局発言要旨）

今年の特徴的な集計結果は。

- ・「景観づくりの推進」に関する問 10、問 11 の評価が大きく上がっている。設問の表現内容を具体化したことが影響していると思われる。
- ・経年変化を把握するという観点からは、途中で設問の表現を変えることはあまり好ましくなかったかも知れない。この点は留意して今後の推移を見ていく必要があると考えている。
- 問 4 で普段からインターネットを使っているという回答が半数以下にとどまっている。「全く使わない」という人に対してどうやって有効な情報発信していくか考える必要がある。

地区毎の分析は行っているのか。

- ・企画課としては行っていないが、他部局では行っている場合もある。

問 18 で自治基本条例の周知度が 27.8%となっている。市民アンケートの結果としては高い方だと

思う。

- ・制定から5年経過しているが、今後も積極的なアナウンスが必要であると考えている。

(2) 行政評価委員会の進め方、今後の在り方について

・来年度から次期総合計画の策定を見込んでおり、今後2年間は外部評価を休止する予定であるが、行政評価委員会の進め方などで改善すべき点があれば意見をいただきたい。

全道的に見て、行政評価を実施している自治体は多いのか。

- ・多くの自治体で実施していると思うが、全施策を実施しているところは少ない。

評価意見検討のタイムリミットがお盆頃と決まっていたので、スケジュール的にタイトに感じられた。

個別事業に関する評価は、深さを求めず幅広い視点で議論した方が良い。

市民が各施策の評価内容を見る際のヒントとなるような意見を出していくべきである。

議論の手法は、市がこの委員会にどこまでの結果を求めているかによって異なってくるのではないかと。

- ・専門性の高い審議会のような意見を求めるというよりは、市民目線の意見を求めている。

- ・行政評価委員会ですべての事業を評価することは、ボリューム的には非常に難しいと思われる。

・庁内組織である行政評価会議によって最終評価をしているが、内部評価だけでは感覚的な判断に捉われがちとなる恐れもあることから、それとは異なる視点からの意見を求めている。

・一般的な審議会では、特定の課題に絞って専門的な議論を深めていくが、行政評価委員会では、そもそも市役所として適切な行政活動ができているかという大局的な観点からも議論していただきたい。

- ・総合計画の進行管理という面からも行政評価委員会の役割は大きい。

・行政評価委員会による外部評価の対象施策となることによって、職員が自らの仕事のあり方やPDCAサイクルを見直すきっかけになっていると考えている。

各種の事務事業を実施するにあたり、国費や道費、市費など、財源の仕組みが複雑であると感じた。成果指標や目標値の意図が明確でなかったと感じる。

もう少しテーマを絞って議論した方が良いのではないかと感じた。

・過去の行政評価委員会では、「施策」を評価する上で関係するすべての事業評価が必要と判断し、事業をA～Dで判定するなど詳細に事業評価を実施したこともあった。

事業評価を細かく実施して、予算の使い方が妥当なのかといった議論に偏ると、監査的な位置付けになってしまう。

行政評価委員自らが何を求められているのか、しっかり認識して関わっていければ良いと思う。

- ・試行錯誤が続くと思うが、今後もより良い方向へ改善していきたい。

(その他)

施策「学校教育の充実」の最終評価では人材活用についての記述が無くなっているが、その後の対応状況は。

・最終評価では、あえて人材活用について特記していないが、新年度予算の要求方針では、人員配置など体制整備について記載されている。これからの対応を検討している状況である。

3 閉会 (17:10)

平成 25 年 1 月 30 日 議事録確定
石狩市行政評価委員会 委員長 松 井 義 孝